ひろば

平成21年3月20日
号外
76
発行責任者
飯田恭次
用賀出張所
TEL. 3700-3657

ボランティア　みんなで一緒に少しずつ

用賀二丁目　小島和子

さりげなく、誰ともなく「こんにちはお手伝いしましょうか？」「ありがとう」そんな会話が溢れる町。町の中ですれ違った時に、にっこり「こんにちは」会釈を交すお友達が増えていく。そのようなきっかけになったらと、十数人がボランティアで月に一回お抹茶のサロンを開催しています。

用賀駅東口近くの陽景会サロン、社会福祉協議会のふれあいいきいきサロンです。誰でも自由に季節のいけばなを愛でながら和菓子とお抹茶を戴き、和気藹々と、またほっとした寛ぎのひとときを過ごせる空間を目指しています。

ボランティアが少しずつそれぞれの時間とアイデアを持ち寄って、無理をせずお互いに自然体で、地域のお役に立てたら嬉しいという心意気で頑張っています。

（民生児童委員）

始めてみませんか　生涯現役ポイント

玉川四丁目　池田良夫

世田谷区では、地域にお住まいの皆さまが、地域のためになる活動（地域貢献活動）に参加することで、ちょっとお得なポイントがもらえる「せたがや生涯現役ポイント」制度の社会実験を始めました。

対象となる、防犯パトロールや花いっぱい運動、多摩川クリーン作戦等に参加するとポイントが貯まります。参加には登録が必要です。交通系のパスモ、スイカの個人番号を利用して、読み込んでもらいます。

一回50㌽は50円に相当する利用券と交換でき、区立の美術館等で使用できます。

春　さあ始めよう

かたくりの花

瀬田四丁目　染野征子

瀬田四丁目広場（旧小坂邸）三月下旬、かたくりの花が咲き始めます。山地でしか見られない珍しい花が近場で咲いています。

種子が地中に入って八年目で、二枚の葉を出して開花、花が終ると葉も枯れ、地面から全く姿を消してしまう。

古くは傾籠と呼ばれ、そっくり返った花びらが籠を傾けた様に見えるので例えられたそうです。ピンク色の花が下向きに咲くとても可憐な花です。昔は球根から「片栗粉」を採っていました。

春のひと時、四丁目広場（玉川病院近く）へ、足を運んで見てはいかがですか？

シルバー青年隊

用賀四丁目　前澤一福

世田谷区シルバー人材センター内に、ボランティア青年隊を旗揚げし、総勢三十五名で活動しています。

少子高齢化社会の中、明るく豊かな町づくりに我々元気な高齢者が、地域社会活性化に一握りでも役立ち貢献できればと思っています。

自主自立共働共助の理念を発揮し活動を展開致します。

主な活動として、地域町内の清掃、果樹園の摘粒剪定、公共団体が主催する各イベント、全国シルバー人材センターとの交流ボランティア等、幅広く活動しています。

チェンジ

玉川六丁目　千野昭江

オバマ大統領の「チェンジ」に刺戟され、私も変わらねばと思い立ち、子育て支援ボランティアを始めました。

勤めがあるとか二番目の子が生まれ手がまわりきらない等、忙しいお母さんに代わってお子さんを保育園へお迎えに行き、お宅までお届けするという仕事です。

車も自転車も使ってはいけない事になっています。

今は、ただただ事故しないようにと、全神経を集中して励んでおります。

自分の孫と同じように、どのお子さんも本当に可愛いものですね。

木洩れ日

飯田恭次

大晦日の『行く年来る年』ではありませんが、三月から四月へと、暦は別れと出会いの想い出を綴ります。

特にピカ〜〜のランドセルを背に、小学校への入学式は、いつまでも心に残る新たな一歩です。

京西小学校の校舎建替工事が始まりました。京西小学校は明治十二年、瀬田村用賀村の村境に誕生、その学校名『京西』は東京の西と云う事で伊藤博文が命名したと云われています。

昭和十四年、現在の場所に引越、以後七十年の歳月が流れました。

京西小の児童たちは、これから二年間、仮校舎で学校生活を送り、新校舎落成の日を楽しみに待つ事になります。

去る二月七日、同校では旧校舎のお別れイベントが行われました。当日は沢山の卒業生、在校生が学校を訪れ、取り壊される教室の壁に公認の落書き……やはり『永い事、ありがとう』『さようなら』の言葉が目立ちました。

京西小学校は明治、大正昭和、平成と時の移り変わりを静かに見守って来たとも云えます。そして、私たちの町の二子玉川・桜町・瀬田・用賀各小学校の生みの親でもあります。

ひろば　ご感想をお寄せ下さい

												回覧

郷土紹介

渋谷水道

二子玉川郷土史会会長　池田良夫

用賀の迫分から真福寺の門前を通り、瀬田、岡本の方向に「水道みち」が通っている。

明治の末期から大正の初めにかけて、東京市は人口増加により西へ西へと拡大していった。

当時、市外であった豊多摩郡渋谷町でも人口が急増し、井戸水の水質が悪化した。そこで安全な飲料水の確保が必要となり、町営で上水道を多摩川から引くことになり敷設の計画に着手した。

東京の水道の第一人者である中島銑治博士に設計を依頼し、大正10年5月に着工同13年2月に完成した。

渋谷水道はその後東京都水道局へ移管されている。

多摩川の水を渋谷へ送水する為の施設として、砧下浄水場が作られたが、ダムによらない取水は、河原の砂利の下に管を敷設して河の底を流れる伏流水を採水し、沈殿池濾過池を経てポンプで駒沢の給水塔へ押し上げた後、自然重力で渋谷町へ送水された。この水道管が埋設されているのが「水道みち」である。

浄水場のポンプ室は、大正ロマンを伝える歴史的な建造物であり、駒沢給水塔の西欧の中世を思わせる王冠のシルエットと共に西洋青瓦を乗せた屋根や小塔は中島博士の優れた土木建築デザインの遺産である。

小倉百人一首

いらか道散歩

飯田恭靖

田園都市線用賀駅の扇型階段を上った所が、用賀プロムナードの出発点。この道は『いらか道』とも呼ばれ、歩道面に小倉百人一首の和歌百首が所々、順番に刻んであります。

まず第一番は天智天皇の『秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ』二番、持統天皇、三番柿本人麻呂…四六番曽彌好忠『由良の門を渡る舟人かぢを絶えゆくへも知らぬ恋のみちかな』と続きます。然し、ここまでの歌は全て平仮名文字書きで、少々読み難いのが残念。

中丸橋を過ぎ、第四七番恵慶法師の『八重むぐら茂れる宿の寂しきに人こそ見えね秋は来にけり』から先は最近、舗装が修復されたのを機に、漢字入りとなって読み易くなり、作者名も新たに書き加えられました。

そして、用賀三条通り、六三番左京大夫道雅『今はただ思いたえなむとばかりを人づてならでいふよしもがな』から第百番順徳院『ももしきや古き軒端のしのぶにもなほあまりある昔なりけり』と**いらか道**は小京都の様な面影を見せます。

途中、九七番は小倉百人一首の撰者、藤原定家作の『来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くや藻塩の身も焦がれつつ』です。

昔のままの海、湾、山並

瀬田二丁目　中村キヨ子

長崎県松浦市は九州の北西部にある。海と山に囲まれた兼業農家が大半を占める小さな町である。

昭和三十年代頃まで北松炭坑が点在していた。海の幸山の幸が豊富なところ。かまぼこジャコ天等他所に引けを取らないくらい美味である。

又休日は、山菜とり、潮干狩、夜は満天の星空を仰ぎ、夜が明けると山腹からは、山鳥の鳴き声、田畑へ向う家畜（うし）の鳴き声で一日が始まる。

しかしのどかな日ばかりではない。台風が来ると町は一変し海は大荒れ家屋は床上浸水と恐い思いも度々あった。

だが台風が過ぎ去った海岸には打ち上げられた銀色に輝く魚を拾いに。台風の置土産だ！

昭和平成と時代は移り町の様子も変わった。タニシを取って遊んだ田圃、アシが茂っていた沼地は、整地され、跡には住宅や工場が建ち、道路も舗装され防波堤も整備された。海岸線に続く県道は博多から唐津伊万里を経由して平戸長崎方面へ向う観光バスのルートになった。

だが帰省した折車窓から見た海、湾、山並の美しい景色は昔のままだ。海面を照らし乍ら沈んでいく夕陽に感動した事が想い出される。

故郷は遠くにありて……

両親も黄泉（よみ）の国へ……

故郷は遠くなりました。

わが故郷

スポット

①春の全国交通安全運動
4月6日（月）から
4月15日（水）

②二子玉川
花みづきフェスティバル
4月29日（水）
兵庫島公園にて

③瀬田
フラワーランドの集い
5月23日（土）
24日（日）
瀬田フラワーランドにて

あとがき

春に合う字は何でしょうか。木の芽が伸びでやがて花いっぱいの季節なら「暖」か「温」でしょうか。

ある学校で「氷」が溶けたら何になるかの問に「水」でなくて『春になります』と答えた子どもにロマンを感じます。

今回のテーマ、「春」は「始」をとりあげました。新学期、新年度、事を始めるに最適な季節、まずは、あれこれ考えずに行動しましょう。

人生を楽しみ、色々と経験してみると限りなく広がって行くものです。

散歩でも花作りでも又、ダンス、ゴルフ、ホビー等々、さあ始めましょう！（池田）

筆・耕・カット　折原